

海外レポート

FIS / HIS 2012 in Liverpool

近畿大学医学部附属病院安全管理部感染対策室

吉田理香

2012年11月19日～21日にイギリス、リバプールで開催された FIS / HIS 2012 に参加してきました。この学会は、The 8th International Healthcare Infection Society (HIS) Conference and Federation of Infection Societies (FIS) annual conference の2つの組織が2年に1回、合同で開催される学会で、感染症、感染予防と管理、疫学、サーベイランス、環境表面殺菌、微生物学および抗菌薬の耐性や新技術などがプログラムされ、感染制御に焦点を当てた国際会議です（写真1）。



写真1 学会会場の様子

学会では、ヨーロッパにおける多剤耐性菌の状況と感染予防、*Clostridium Difficile* の傾向と対策、施設・設備、スマートフォンなどを活用した情報収集とネットワークの構築など興味深い講演が多くありました。

私は、感染管理ベストプラクティス研究会を代表して「A novel “Saizen” Best Practices program for infection prevention in Japan」というタイトルで、2003年から感染管理ベストプラクティス研究会として取り組んできた背景と近畿大学医学部附属病院の中で感染制御リンクナースと共に院内感染対策マニュアルとして採用し、どのように活用しているか

ということをポスターで発表してきました。ポスター発表は各セッションが終了してから夕方に行われ、セッション終了と同時に参加者が続々とポスター会場に集まり、それと同時にワイングラスに赤や白のワインが注がれ、他にもウイスキーなどのアルコールが配られ始めるというのは、日本にない趣向だったのでちょっと驚きました。今回、HISに参加して英語もままならない状態でしたが、感染制御という同じ目的で参加している者同士として、伝えようという思いに答えてくれようとする人がいてくれることは、とても心強く感じました。海外に行くたびにいつも思うことですが、もっと情報交換ができるよう自己研鑽に励みレベルアップしなければいけないと反省しました。

最後に、日本では、各地で取り組んでいるベスプラの考え方を海外の人に伝えるのは簡単なことではありませんが、少しでも多くの人に理解してもらえるよう努力していく必要性があると思いました。今回 HIS に参加させて頂き、多くの学びと出会いがありました。藤田先生、土井先生はじめ多くの研究会関係者の皆様に深く感謝致します。

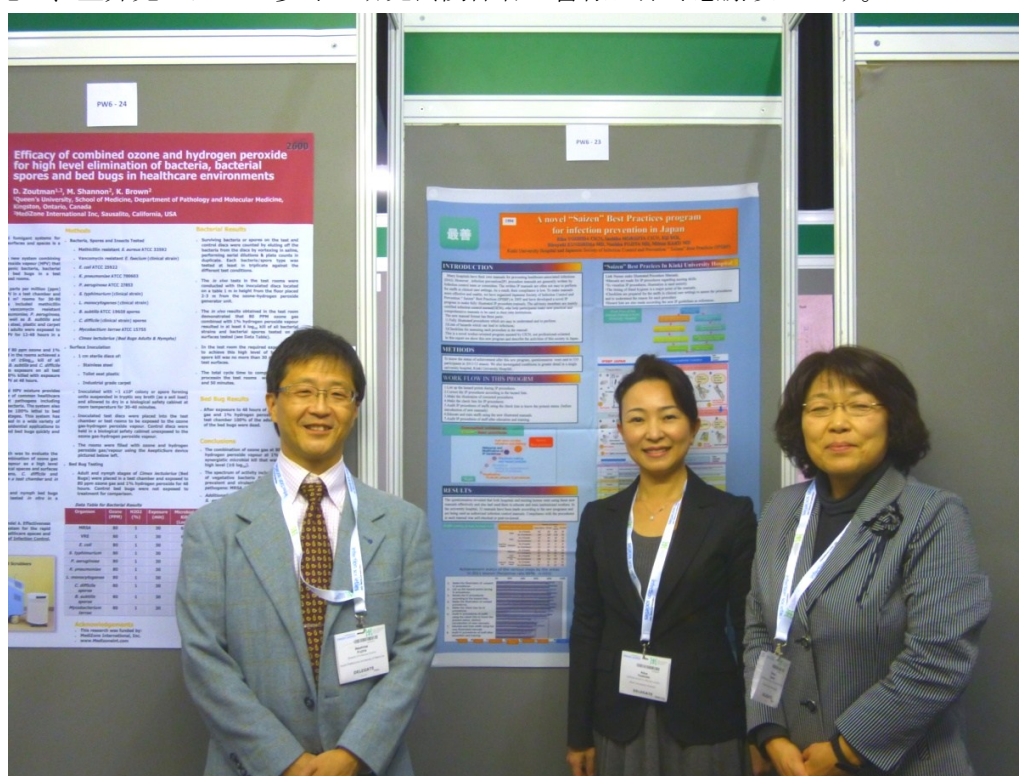


写真2 HISの参加者 左から藤田直久先生、筆者、佐々木浩美さん